

産業チーム

項目	目標	基本施策	施策	具体的事業・活動内容
観光・交流	農林水産物、歴史・文化、自然環境など全ての財産を観光と結びつけ生かす	道の駅の充実。道の駅を中心とした地域をつくる	道の駅九頭竜は地域の中心に位置し、多くの方が訪れ賑やかです。また直売所では食品や農林産物を販売しそれに携わる生産者も多くいます。そんな道の駅は地域の核であり地区民の心の中心となるものです。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域では農林業の後継者不足や農地の荒廃などの問題があります。また道の駅の拡張や周辺整備、または中部縦貫自動車道完成後のあり方の検討が必要です。 ・中京方面から本市や本県の東の玄関口として観光を始め、地域情報発信の核になるためにどうすればよいか話し合います。
		観光スポットに磨きをかける	<p>魅力ある観光スポットが数多くあります。</p> <p>例えば面谷鉱山跡、青葉の笛、白竜神社、穴馬総社、平成の湯や県内有数の大きなイベントである九頭竜新緑まつり、紅葉まつりがあります。また貴重な化石を含む地層が広がります。</p> <p>歴史・文化施設やスポーツ施設、宿泊施設など全てが魅力ある資源です。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 守り、残していかなければいけない観光スポットを選定します。市が管理するものとそうでないものを区分し、地域で守っていかなければならないものを選定します。選定後は地域で管理する方法を検討します。 ② 「穴馬」「白竜神社」「青葉の笛」などその文字や伝説などを利用したパワースポットを選定し、有効活用します。 ③ 地域内の各スポット（施設・事業者・人）や行事をつなぎ、ストーリー化し地域で滞在できるようにします。そのためには旅行社や各事業者と協力してツアーの企画など検討します。また同様に市内、県内施設との連携も進めます。 ④ 新緑、紅葉まつりでは地区内の出店者が減少していますが、地区民が何らかに関わって盛り上げます。 ⑤ 化石を含む地層は、今後、学術的価値と重要性が高まると考えられ、工事等で排出される化石を含む岩石を地域の活性化に生かします。現在支所を中心とした実施計画を活用します。 ⑥ 地域の魅力を発信します。マスコミやフェイスブックなどを活用します。 ⑦ 国民休養地、九頭竜スキー場の利用者や九頭竜新緑まつり、紅葉まつりに訪れる人などに利用しやすい施設となるよう駐車場の盛土について行政と話し合います。 ⑧ 駅裏のSL機関車を国道沿いや国民休養地などに移転し、効果的な活用ができないか検討します。 ⑨ ダム湖面を利用した観光スポットを検討します。
		花桃や万本さくらの育成・管理と花いっぱい運動を進める	平成 22 年から植樹した 1500 本の花桃も新たな地区の目玉、地区民の癒しの場として活用し、地区民の手で育成管理します。丁地区の芝桜、矢地区のカタクリ、勝原の花桃と合わせた花街道を形成します。㈸電源開発が管理している九頭竜川上流に植えられている万本さくらも大切な資源です。	<ul style="list-style-type: none"> ・越前おおの・九頭竜花桃回廊実行委員会が行う花桃を育成管理します。地区内外のボランティアで行っていますが、地区民の参加や地元事業者の参加を求めます。 ・平成 25 年度から開始した「道端花いっぱい運動」で道端や自宅周辺を花でいっぱいにします。将来は花のイベント開催を計画します。 ・四季それぞれの花や自然の景観を大切に守ります。そのため乱開発や産業廃棄物の廃棄などを監視します。
農林水産物を生かす	特産品や農林産	穴馬スイートコーン、穴馬かぶら、昇竜まいたけは地域の特産品です。後継者不足や鳥獣害などの問題で生産量は減少していますが、魅力発信と自信を持って食べていただけるよう良質のものを作ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・穴馬スイートコーン、穴馬かぶらは良質のものを提供するとともに、販売方法、規格、価格を（有）いずみや㈸昇竜、生産者などと話し合いを行います。価格の安定やさらに特産物生産組合（仮称）の設立を検討します。 ・市と協力して鳥獣害対策を進めます。 ・新製品の開発を検討します。また加工品の研究・開発の手助けをします。 	